



松本市の新規就農者支援

松本新規就農者育成対策事業

松本市とJA松本ハイランド、松本農業改良普及センターが共同で行っている農業研修制度です。JAの子会社の農業法人の研修生として、りんご・ぶどう・すいか・セルリー・施設野菜（きゅうり・トマト）の中から選択した品目で3年間実践的な研修を行います。研修中は、営農生活資金の給付、農業機械・農用地の無償貸与ほか、苗木、ハウス建設等の補助があります。

松本市新規就農者支援事業

松本市で専業農家として就農した方（概ね3年以内）に対して、農業機械・農業施設の取得費の1/2（上限50万円）を支援します。



松本市の農産物



りんご 旬9月～11月
サンつがる・秋映・シナノスイート・シナノゴールド・サンふじ



ぶどう 旬8月～10月
デラウエア・巨峰・ピオーネ・シャインマスカット・ナガノパープル



きゅうり・トマト（施設野菜）
旬5月～7月下旬
8月下旬～10月中旬



すいか 旬7月～9月

お問い合わせ

松本市役所農政課

〒390-8620 長野県松本市丸の内3番7号

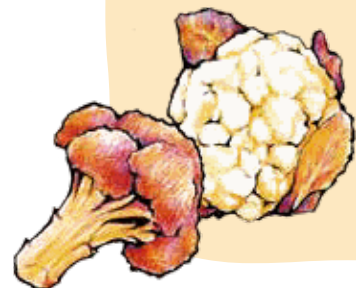
電話 0263-34-3222(直通) FAX 0263-36-6217

E-mail nosei@city.matsumoto.lg.jp

公式ホームページ

「くるくるねっとまつもと」

<http://www.city.matsumoto.nagano.jp>



美しく生きる。

 健康寿命延伸都市・松本





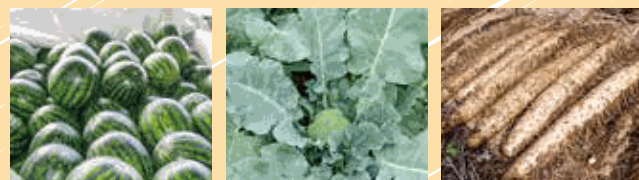
池田直樹さん
理恵さん夫妻

研修1年目からぶっつけ本番

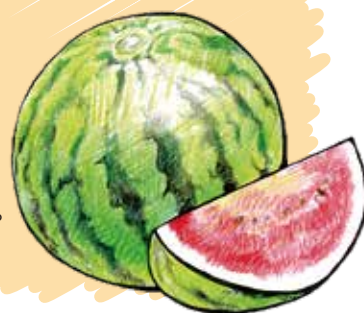
池田直樹さんが研修を開始した2000年代前半は、新規就農者支援の黎明期であった。「今は、里親農家さんのところで1年間ひと通りのことを教えてもらってから、2年目に実習といったカリキュラムが確立しているけれど、当時は、いきなり実践ほ場に出ていた。先のことや段取りがわからず苦労したよ」

池田さんは、そのような状況にもめげず、JAの営農指導員や縁あった先輩農家から技術や経営ノウハウを学んだ。「それでも、最初は、ほんとに稼げなかったなあ。時間はかかったけど、品質の向上や出荷量を少しずつ増やしていったら、5年目くらいかな、手元にお金が残るようになったのは。それを資金に農地取得や機械の購入など投資ができた。すぐには上手くはいかないよ。こつこつと地道に取り組むことが大切」と自身の営農への取り組み姿勢を教えてくれた。

現在、池田さんのもとでは研修生が新規就農を目指し汗を流している。



スイカ・ブロッコリー・ナガイモのローテーションで経営の多角化を図っています。



夫が園主で私が代表

このような自己紹介で笑いを誘っているのは、Happy Village Farmの石綿奈巳さんだ。夫の薫さんより2年早く就農したこと、夫婦で品目ごとに部門経営をしていることから、お互いを立ててこう呼んでいる。

奈巳さんは、主婦仲間での農家アルバイトを契機に、自分たちで野菜を生産し、販売ができれば、楽しく豊かに暮らせるのではないかと。という気持ちで農業を志したという。しかし、現実には農家でないと農地を借りられないといった壁に突き当たってしまう。それならば、思い切って専業農家になってしまえ。と研修を受けて農家となったという行動派だ。

一方、薫さんは、種苗会社と研究機関に20年近く勤務し、農業研究者としてのキャリアを持つ。研究者として自然農法による土づくりの研究や、農業分野以外からの新規参入者を応援していたが、はたして自分の伝えてきた理念や理論は経営に役立つのだろうか、実際の営農に取り入れられる考え方や技術を教えているのだろうかかと疑問を持つようになったという。そこで、「実践の中にこそ技術が確立する」との持論に至り、土壌分析に基づいた自然農法を実証すべく就農した。



Happy Village Farm
松本市波田 TEL0263-91-1338
E-mail info@happyvillagefarm.com
URL <http://www.happyvillagefarm.com/>

石綿薫さん・奈巳さん夫妻



夏はトマトを中心に、年間を通じて個性的な野菜を生産しています。



関雅一さん・美奈子さん夫妻

農業を一生の職業に

「東京で出版社に勤めていた時から、農業を一生の職業にしたいと思っていました。就農するなら大好きな山に囲まれ、自然豊かな信州。と最初から決めていた」と話すのは関雅一さんだ。

研修1年目に17aの園地で研修をスタートしたが、今ではその10倍以上の、220aの園地で、ぶどうとりんごの栽培を行っている。「始めてみたものの、生活していけるか不安でいっぱいだった。不安を振り払うように、農業に打ち込んでいった。そうしたら、里親農家さんが農地を探してくれたり、周りの農家さんが貸してくれたので、自然と農地は集まっていった。今は畑が地区の中に点在しているので、集約して効率的な経営を目指したい」と話す。

営農規模が大きくなったので、大型機械を置く倉庫や収穫した果樹を選果する農家住宅が欲しいが、なかなか見つからないと苦労や悩みも語ってくれた。

まんまある果樹園 | 松本市今井
E-mail manmarl@mhl.janis.or.jp



松本の畑から旬の果物をお届けします。



いかに自分なりに考え高めていくかが今後の課題

中尾信也さんは松本市とJA松本ハイランド、松本農業改良普及センターで実施している「松本新規就農者育成対策事業」の制度を利用し、きゅうりの栽培技術を学んでいる農業研修生だ。

「農業がやりたいという気持ちはあったが、どんな作物を栽培したら、家族を養っていくだけの稼ぎとなるか、分らなかった。松本で栽培できるもの、新規参入に向いているもの、自分が好きなものを調べていくうちに、土地生産性と販売単価が高い施設野菜に、いきついた」

研修では、必ずメモを取っていたが、実際に研修ほ場でやってみると、土質の差異が栽培方法に大きく影響を与えるなど、里親のほ場との違いに苦労したという。

「技術を覚えることは当然のことながら、それをいかに自分なりに考え、高めていくかが課題だ」と今後の意気込みを話してくれた。



中尾信也さん



就農に向けて準備中

